



## 申1号 第40回定期大会発言に基づく申し入れ 団体交渉を行う！ ① 1月25日開催

1. JR東日本およびグループ会社・パートナー会社等で発生する事故・事象に対する原因究明を行い、同種事故の防止に向けた対策を講じ、命を守ることを最大の価値基軸に、安全第一の職場風土を構築すること。

◆は組合の主張 ・は確認事項

◆6月16日に発生した米坂線でレールスターと列車が衝突した事故は、作業員の命があわや失われた事故である！現場経験の少ない社員に対する教育訓練を充実させるべきだ！

- ・一歩間違えば、命を奪われる事故であり、危険な事象である。
- ・ヒューマンエラーは起きるものであり、必ず起きるという前提のもと仕組みをつくる。
- ・現場経験の少ない社員に対する教育訓練を充実させる。

◆二重安全措施を再教育するべきだ！WEB TRAINで列車遅延を把握するべきではない！

- ・自らの身を守ることが大切である。WEB TRAINは保安体制では使えない。

◆本体とパートナー会社で不安点の情報共有ができていない。安全に関しては本体もパートナー会社も分け隔てなく対等に意見を言い合えなければ、対策の周知と共有はできない。風通しの良い何でも言い合えるパートナー会社との関係、職場雰囲気づくりをしなければいけない！

- ・パートナー会社と情報の共有が図れる職場風土を醸成する。

◆事故が起きるたびに対策としてルールが積み重なる。実態に即したルールをつくるべきだ！

- ・ルールができた経緯を確認し見直しできるものは整理していく。
- ・危険を感じたら列車を止めることの定着を今後も行っていく。

◆教育・訓練は現場に即したものを実施すべき。

◆マニュアル通りには行かない。安全サイドに判断ができる社員づくりが重要だ！

- ・教育・訓練は現場に即したものを実施する。
- ・安全に関するアンケートを実施した。何かあれば止める意識は社員の中につくられているが、止められない事象、安全より安定を考慮してしまう状況も見られる。会社としてしっかり発信したい。

3. 「ワンマン運転の拡大」に伴い、新たに実施したワンマン運転において発生している課題を把握し対策を講じること。

◆ツーマンからワンマンになったことで、運転士が行う動作が増えている。運転時分が不足に慢性的な遅延が発生している現実がある！乗継時間も僅少であり、発車準備に時間がかかり遅延しているので改善するべきだ！

- ・線区の状況や輸送形態を見てダイヤ設定をしていく。
- ・現場の声を聞きダイヤ設定に反映させていく。

◆車側カメラの汚れ、E131系で多発する滑走等、車両の課題も出ているので改善するべきだ！

- ・導入したから終わりではなく、様々検証して乗務しやすい車両にしていく。

◆新たに運転士だけによる分割・併合作業などが実施された時にはしっかり教育すること。

- ・新たに実施する作業について、タブレット配信で終わりということではなく、マニュアル整備や教育・訓練をしていく。